



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2021年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

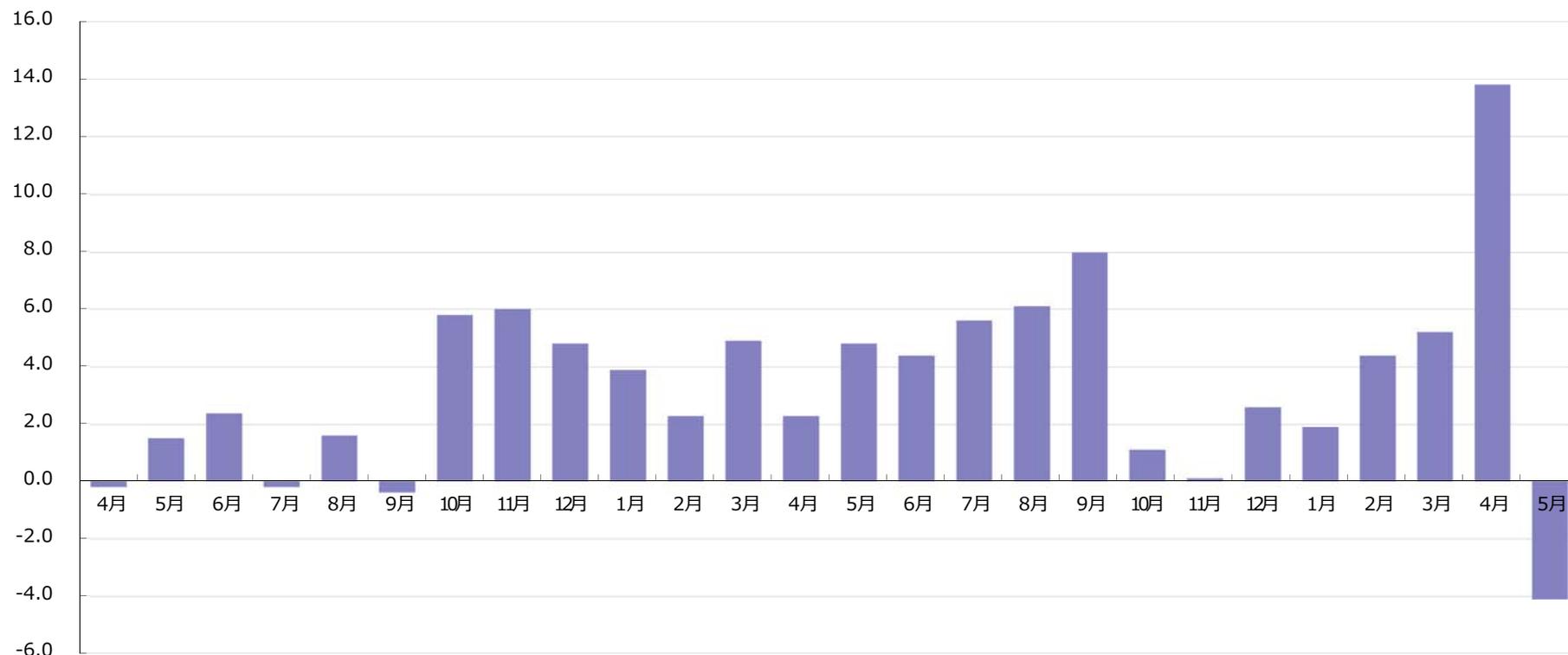
2020年8月11日

2021年3月期第1四半期 決算概要

2021年3月期第1四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2018年10月以降19ヶ月連続で増加していたが、2020年5月より減少に転じ、新型コロナウイルス感染症による影響が出てきたものと思われる。

2021年3月期第1四半期総括

売上高は過去最高、利益面は上場来3位、前年同期比で増収減益

売上高	: <u>1,338</u> 百万円	前期比	0.1%増		
営業利益	: <u>104</u> 百万円	前期比	27.6%減	利益率	7.8%
経常利益	: <u>117</u> 百万円	前期比	27.4%減	利益率	8.8%
当期純利益	: <u>84</u> 百万円	前期比	23.7%減		

受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は6期連続の増加

受注高	: <u>1,584</u> 百万円	前期比	4.0%増
受注残高	: <u>2,590</u> 百万円	前期比	16.3%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 宇宙先端システムB Fの売上高比率が大幅に増加し、モバイルネットワークB Fが大幅に減少するなど需要構造の変化は継続しているが、全体的には好調であった。
- 需要構造の変化に対応し、売上高は前期を上回ったが人件費や外注費などの製造原価の増加に見合う金額には及ばず減益となった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響は、新規顧客開拓が低調だったこと以外は出ていない。引き続き、社員の健康と会社の成長の両立を目指し、商談活動を活性化させていく。

第1四半期損益計算書

	2020年3月期第1四半期 (百万円)	2021年3月期第1四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,337	1,338	100.1	—	—
売上原価	973	1,011	104.0	—	—
売上総利益	364	326	89.6	—	—
販売管理費	220	222	100.8	—	—
営業利益 (営業利益率)	144 (10.8%)	104 (7.8%)	72.4	—	—
経常利益 (経常利益率)	162 (12.1%)	117 (8.8%)	72.6	—	—
当期純利益	111	84	76.3	—	—

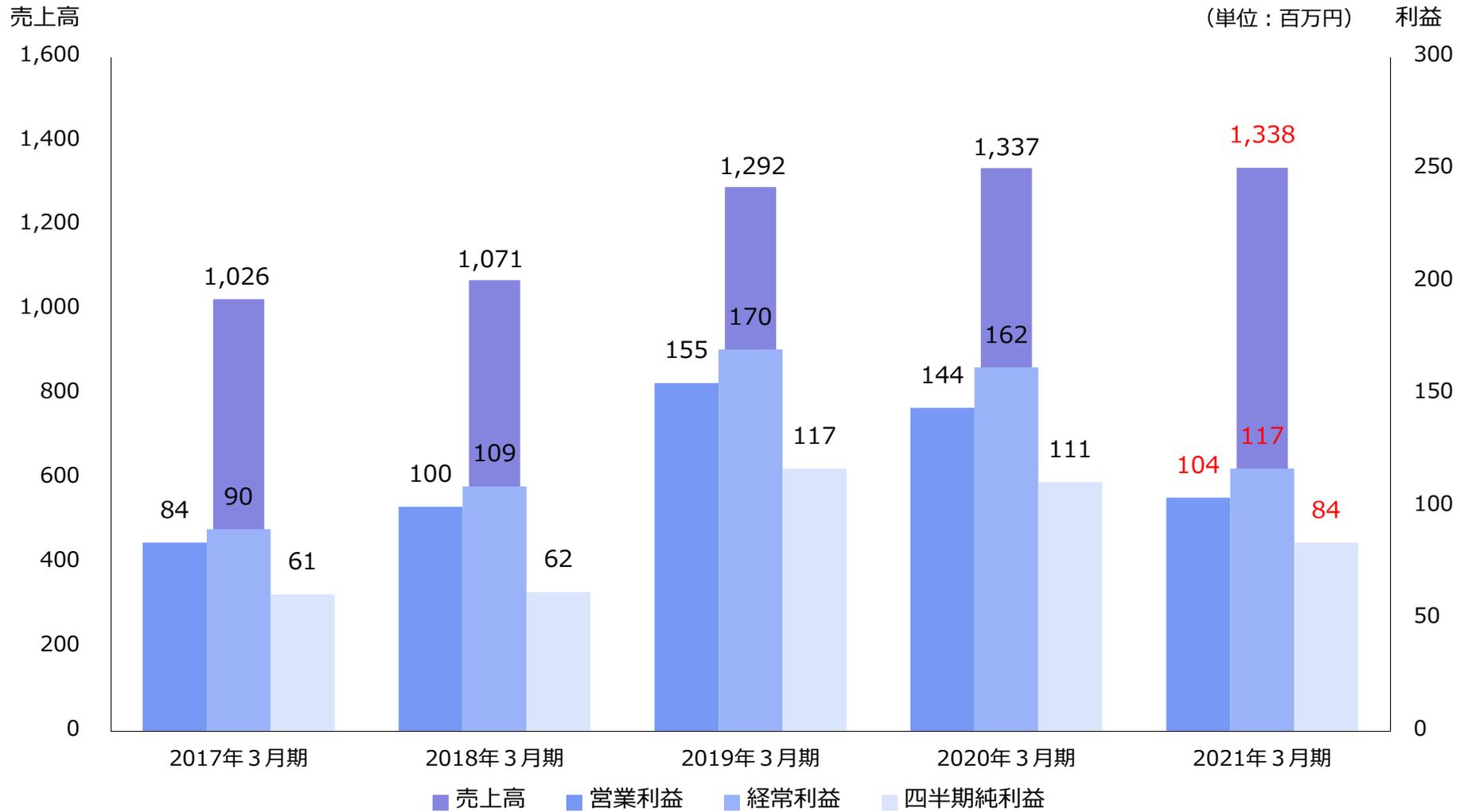
売上原価 社員数の増加とベースアップにより人件費が増加、売上高増加に伴い外注費も増加
(外注費 4.0億円、前年同期比2.8%増、売上高外注比率30.5%、前期29.7%)

販売管理費 研究開発費が大幅に減少したが、採用活動強化により採用費が大幅に増加
(研究開発費は14百万円で、前年同期比で30.6%減少)

営業外損益 研究開発の補助金収入はなし (前年同期は4百万円)

第1四半期決算業績推移（過去5年）

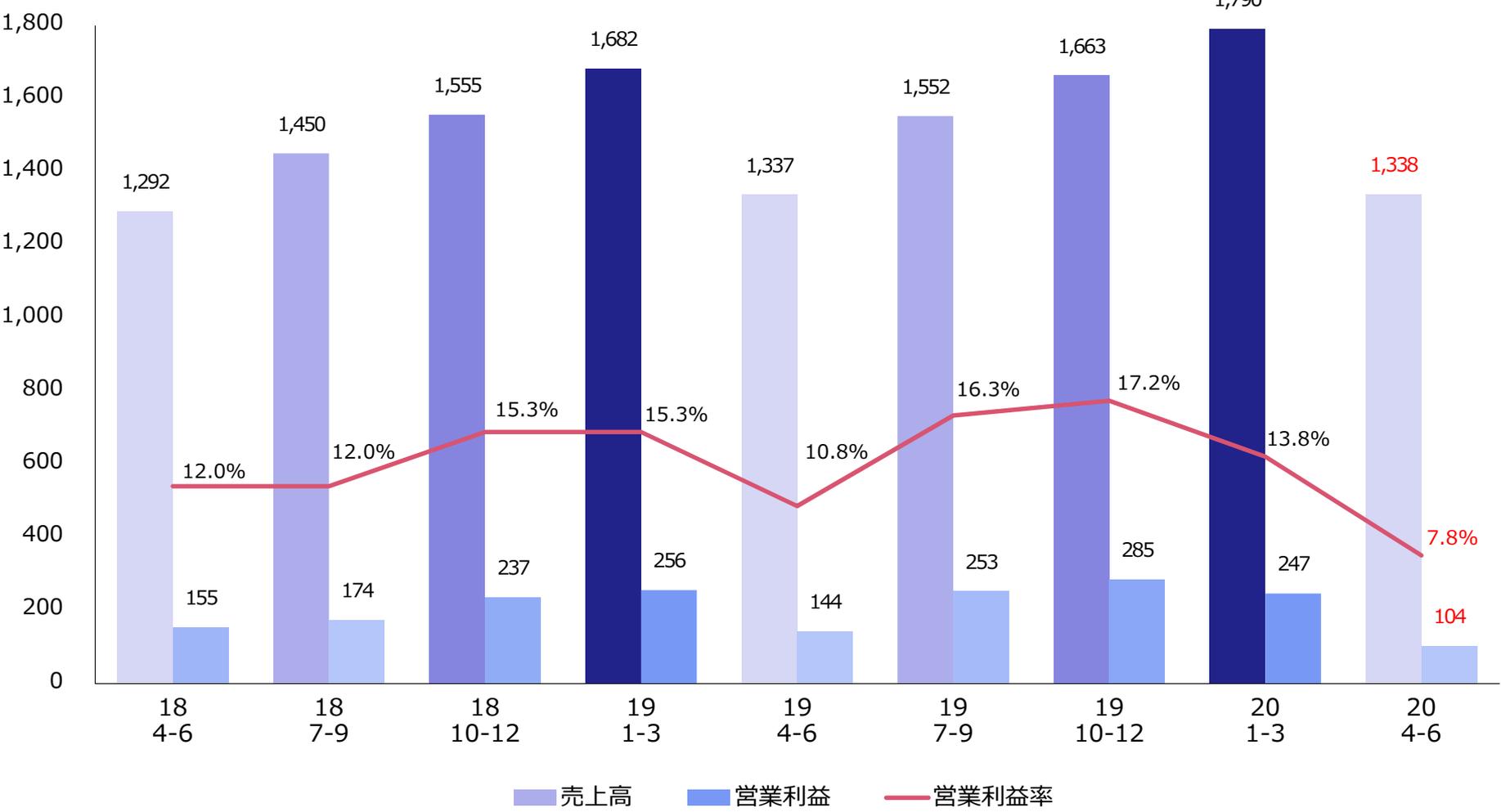
売上高は過去最高、営業利益、経常利益は上場来3位



四半期業績推移 (P L)

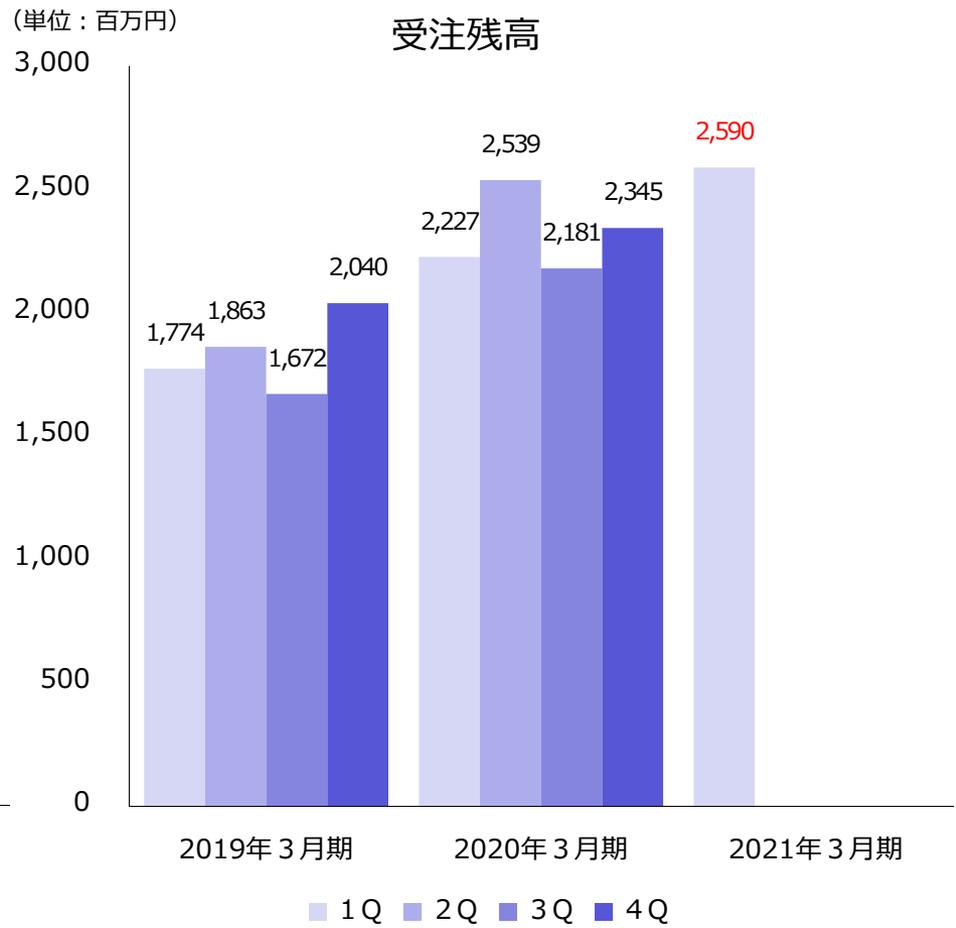
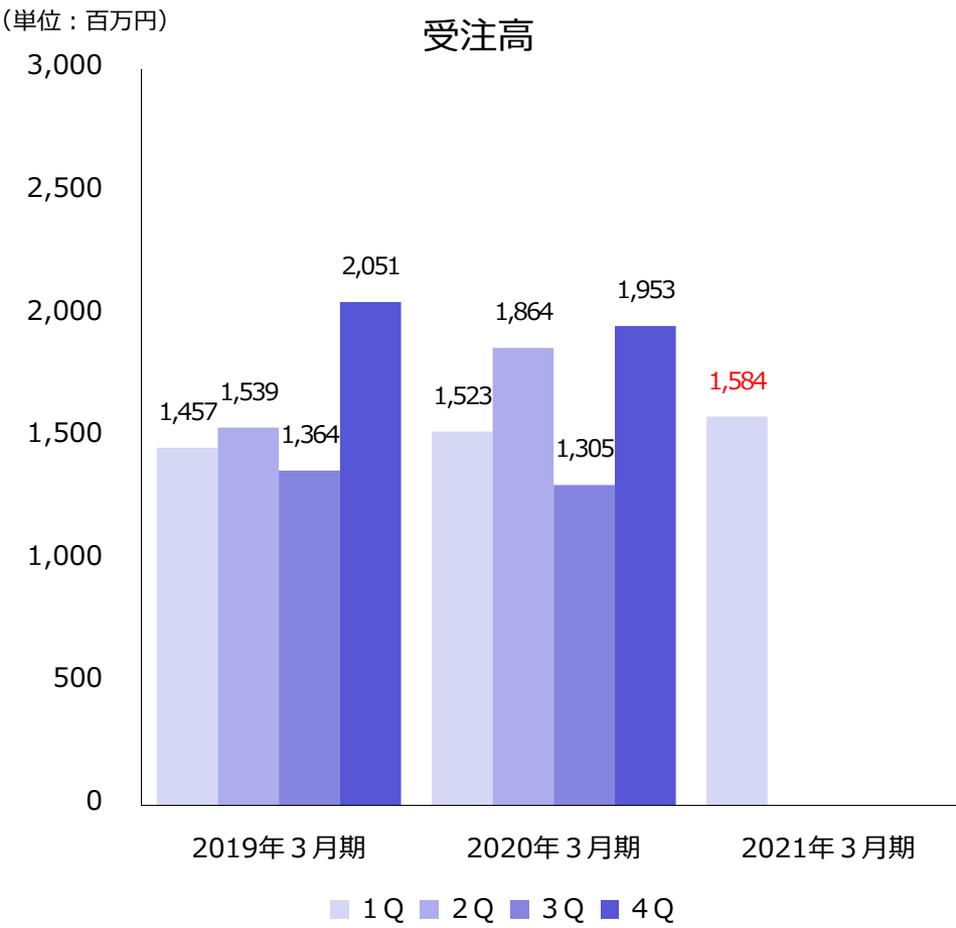
前年度第4四半期から、2四半期連続の増収減益

(単位：百万円)



四半期業績推移 (受注状況)

受注高、受注残高ともに過去最高



第1四半期BF別の状況

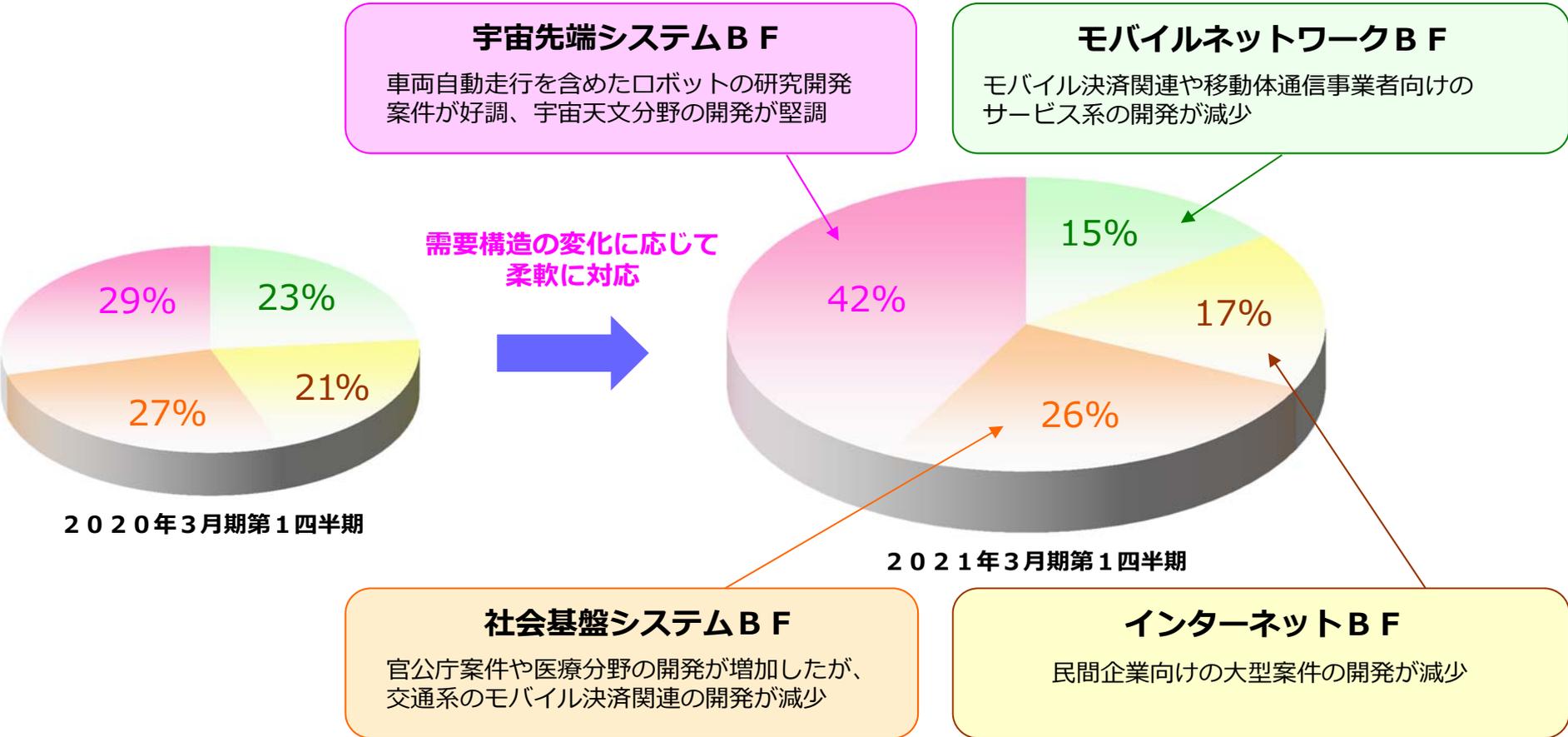
宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期第1四半期		2021年3月期第1四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	314	23.5	197	14.7	62.7
インターネット	278	20.8	232	17.4	83.5
社会基盤システム	356	26.7	341	25.5	95.7
宇宙先端システム	387	29.0	567	42.4	146.3
合計	1,337	100.0	1,338	100.0	100.1

- モバイルネットワークBFは、モバイル決済関連や移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件や医療分野の開発が増加したが、交通系のモバイル決済関連が減少
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発が堅調

第1四半期BF別構成比

宇宙先端システムBFの割合が増加



第1四半期末のBF別受注状況

社会基盤システムが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期第1四半期		2021年3月期第1四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	252	262	209	82.8	311	118.6
インターネット	325	320	217	66.8	278	86.9
社会基盤システム	394	1,127	596	151.0	1,416	125.6
宇宙先端システム	550	516	561	101.9	585	113.3
合計	1,523	2,227	1,584	104.0	2,590	116.3

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,200百万円、前期(1,848百万円)と比較し19.0%の増加)

- モバイルネットワークBFは、電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少し、受注高は減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少し、受注高は大幅に減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件が増加し、受注高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボット案件や宇宙天文分野の開発が増加し、受注高は増加

2021年3月期 通期業績見通し

2021年3月期業績見通し（変更なし）

需要構造の変化への対応のため、売上高は微増の計画

（単位:百万円）

	2020年3月期 実績	2021年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,343	6,400	100.9
売上原価	4,568	4,640	101.6
売上総利益	1,775	1,760	99.2
販売管理費	844	910	107.8
営業利益 (営業利益率)	930 (14.7%)	850 (13.3%)	91.3
経常利益 (経常利益率)	999 (15.8%)	890 (13.9%)	89.0
当期純利益	687	620	90.1

売上高 新型コロナウイルス感染症の影響により不透明感があり、微増を見込む

売上原価 社員の約8割をリモートワークに移行、設備投資や昇給を含めた人件費の増加を見込む

販売管理費 間接部員の最適化による労務費の増加、研究開発への投資などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入が前期より減少

2021年3月期B F別業績見通し

宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第1四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少し、全体では減少	➡	モバイル決済関連や移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、ほぼ予想どおりの展開	➡
インターネット	民間企業向けのWEBシステムの開発が、設備投資抑制により若干の減少を見込む	➡	民間企業向けのWEBシステムの開発が減少し、ほぼ予想どおりの展開	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	➡	官公庁系の開発や医療分野の商談が堅調で、若干の増加を見込む	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調で、宇宙天文分野の開発も増加傾向にあり、全体で増加	↗	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調で、宇宙天文分野の開発も増加し、ほぼ予想通りの展開	↗

ロボットビジネスの状況

実績 (2021年3月期第1四半期 売上高約363百万円)
← 前年同期約249百万円 ← 前々年同期約249百万円)

車両自動走行は大幅増、サービスロボットの研究開発案件も増加し、全体で前期比46%増

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアなどの研究案件が大幅に増加
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築などのメーカーからの研究開発案件が堅調
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボットなど広範囲
⇒ 顧客層は拡大傾向だが、中小型の研究開発案件が中心

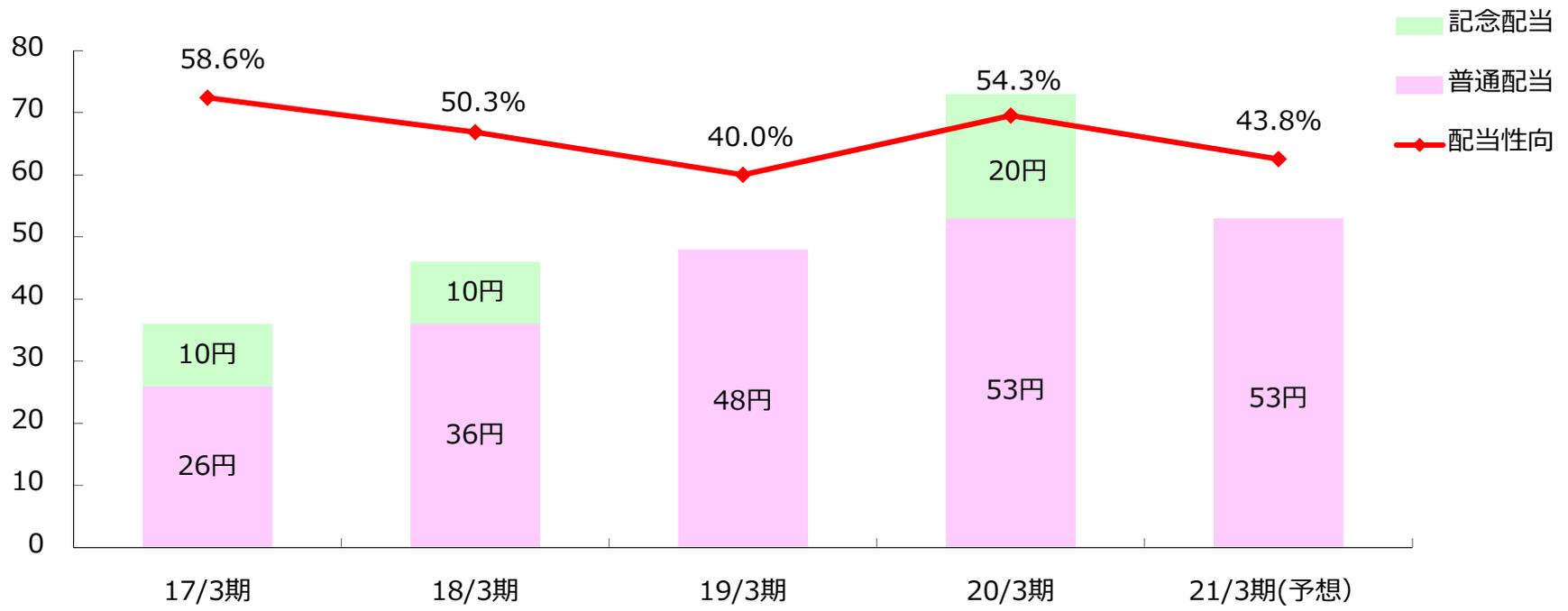
今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2021年3月期は前期と同額の1株当たり53円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。